

分野：自然への愛着 生態系・生物多様性

「よしみ里山プロジェクト」

環境アドバイザー

田畠 麻帆

対象 県内親子参加者 19名/全体 35名

所要時間



4時間

場所 埼玉県比企郡吉見町田甲

実施時期

令和2年12月6日

概要

みんなで守ろう！育てよう！よしみ里山プロジェクト

この活動は、埼玉県比企郡吉見町の雑木林を所有する山主から、人手不足で荒廃した林を何とか出来ないかと相談を受けたことがきっかけで2012年より保全活動を開始。数年間の手入れにより貴重な野草や野鳥の観察まで回復。2018年より年6回、親子向け野外ワークショップ活動を実施し、森林ESDや里山保全活動を継続している。

プログラムの
ねらい

テーマ 落ち葉をつかう 葉っぱをあつめて土づくり

身近な植物「木」を知らない親子はいないが、木のどんなことを知っているか？と問われたとき、私たちは、どんなことを知っているだろう。冬、木々は落葉し一面が落ち葉絨毯となる。地面でどのような作用をするか、落ち葉を掃いて腐葉土（肥料）づくりを行う。また、薪や落ち葉を活用した食べ物で里山と人の繋がりを体験する。

プログラムの内容

1 10:30~12:00 (90分)

午前活動 オリエンテーション、落ち葉を掃く、落ち葉を溜める、腐葉土をつくる
前回、どんぐり育成に使った腐葉土が、約3年前の落ち葉が分解した腐葉土であることから、落ち葉の活用方法、豊かな土となる落ち葉の役割、腐葉土にならない落ち葉（樹種）を伝える

2 12:30~14:30 (120分)

午後活動 焚き木の枝拾い、地面に穴を掘る、熾火でよしみ町産のさつまいもを焼く
ミノムシ体験の五感ワーク

・日本の里山は、森林がもたらす豊かな恵みを暮らしに活かしてきた日本人独特の関わりの場。人と生き物が共に生きる自然環境である。活動地は、クヌギやコナラなどが大きく成長し、その落葉で腐葉土づくりを行う。数年前を置いた腐葉土は、植樹した果樹などの肥料、土壌改良に使用する。落ち葉を掃き地面に光あたり野草が咲き始めたことから、適当に落ち葉を掃いている。里山の森林資源の活用事例として、ご飯や芋を焼くなどの体験を行う。

・みる、きく、さわる、かぐ、あじわう、五感をつかうショートワークも毎回実施。

受講者の反応

・落ち葉掃き、落ち葉溜めづくりは、例年、子どもにも大人にも人気の活動、無心になれると好評である。また、例年、落ち葉プールに何度も飛び込む子どもや、中で寝る子どもが見られる。

・人とエネルギーの関わりが変化し、日本の木材が使われなくなった現状を伝え、薪や木を使う暮らし方の事例体験も関心が高い。実際にやってみて腑に落ちる経験につながっている。

環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要



上：落ち葉溜めの様子

はじめて会う子供たちが一緒に遊びだす

左：活動地内を離れて落ち葉掃き

全く密にならない環境でひたすら掃く

下左：布団をかけたように潜る子ども

落ち葉が暖かいと好評

下中：焼き芋が焼けた様子

はじめて体験した親子が多くみられた

下右：ミノムシ体験の五感ワーク

ハンモックとマットを利用し目を閉じる

